山都町立潤徳小学校　学校だより

潤徳小伝説～永遠に～

潤徳小HP　令和５年６月１９日（月）　第１５号
QRｺｰﾄﾞ←カラーで見られます！　校　長　池部　聖吾智（みわとも）

閉校記念に　校歌のＤＶＤをつくろう！

「子どもたちが校歌を演奏し、ＤＶＤ制作をしませんか？」

本校閉校の知らせを聞いた「テックジーニアス　デジタル未来塾」から本校に相談がありました。ちなみに当塾は、山都町と芸術文化と観光振興に関する協定を締結しています。

私自身も今回の閉校に際し「子どもたちにいろんなことを経験させて、次のステップに進んでほしい」という考えを強く持っていました。今回の話は、子どもたちに専門的な指導を受ける絶好の機会であること、この取組によって八朔祭への出場が可能になること、何よりも子どもたちの貴重な思い出づくりになると考え、協力を依頼することにしました。

先週九日のオリエンテーションで、概要を説明しました。いよいよ今週から実働に入ります。今後進捗状況をお知らせします

私の１冊　「ソーシャルジャスティス」　内田舞　著　文春新書

数学者の藤原正彦氏が、著者の高校時代の卒業式保護者代表スピーチで以下の話をされたそうです。「論理の発端は常に仮定なのです。その仮定、証明の出発点が間違っていると、どんなにその後の論理が正しくてもたどり着く終着点は間違ったものになります。出発点である仮定を選ぶのは『勘』であり、その勘を磨くために必要なのは『経験』です。（中略）これから挫折を味わう人もいます。しかし、今回挫折を経験しなかった人も、必ず挫折を経験します」

著者の内田さんは小児精神科医、脳科学者で３児の母でもあります。２０年以上たった今でもこの卒業式時の話を覚えていて、この話が支えとなり、「地に足をつけた地道な努力が、逆境を乗り越える力になる」ことを学んだそうです。この本は、「分断」と「差別」を乗り越えるためのヒントを与えてくれる１冊です！

潤徳抄Ⅱ

私は、よしもと新喜劇が好きである。小・中学時代からテレビで観ている▼今も深夜に放映されている番組を録画して観る。年に２回ほど本丸・大阪までライブを観に行っている。ライブではみんなで大笑いできて心地いい▼最近、よしもと座員・未知やすえさんの記事を目にした。「人生何があるか分からない。（中略）病気をきっかけに痛感しました。（中略）『…あの人、何をしてるんだろう』と気になったら、すぐ連絡を取って会いに行ってます」この部分が私にヒットした。今の私と同じだからである▼いよいよ数年後に「定年」を迎える年齢となり、「人生を悔いなく生きよう！」と考えるようになった。その一つが未知さんと同様、「連絡を取りたくなったら連絡し、可能ならば会う」である▼胸を張って再会の日を迎えることができるよう、常に自分を磨き、進化しつづけたい。この夏、いくつの再会ができるのだろうか